

日吉台地下壕保存の会

会報

第32号

発行 日吉台地下壕保存の会
編集 事務局

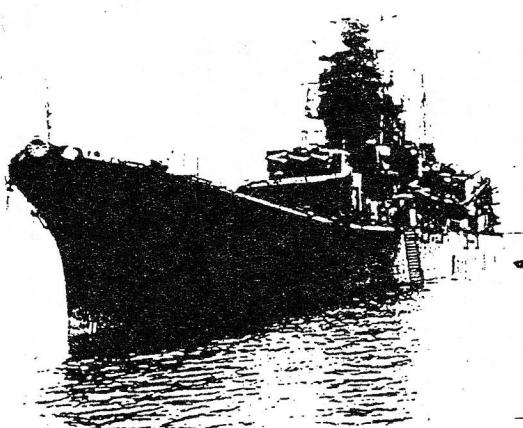
223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費)一口千円で、一口以上

郵便振入(口座番号)横浜 5-74921

(加入者名)日吉台地下壕保存の会



連合艦隊旗艦大淀

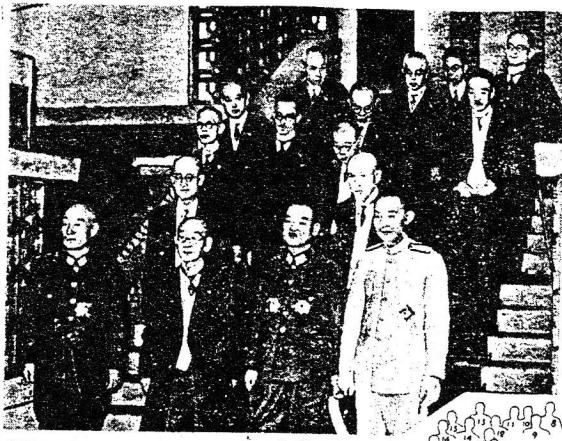
写真集日本の軍艦 ベストセラーズ刊より

連合艦隊が
日吉に移転
してきた
昭和19年の写真です

長官に就任
19年5月
内閣成立
19年7月



官長令司隊 総合聯田



朝日新聞に見る日本の歩み昭和17~19年より

目次

ページ

- | | |
|--------------------|-------|
| ロンドンの戦争博物館と
地下壕 | 2 ~ 3 |
| 子供の頃 | 4 ~ 5 |
| 強制連行の実態を調査報告 | 5 |

連載日吉台地下壕

- | | | |
|-------------|---|-------|
| 当時の関係者の思い出話 | 9 | 7 |
| 幹事会報告 | | 7 ~ 8 |
| お知らせ | | 8 |



ロンドンの戦争博物館と 地下壕

会員 白井厚



帝国戦争博物館入口

英國に短期間出張したので、ロンドンで戦争博物館とロンドン大空襲時の内閣用地下壕跡を見てきた。田舎台地下壕の保存にも若干参考になるかもしれない。

帝国戦争博物館
(Imperial War Museum)
入場料 421・90
地上三階、地下一階の堂々たる建物で、中央は吹き抜け。そこに飛行機、戦車、大砲、潜水艦、ミサイルなどが陳列

たる建物で、中央は吹き抜け。
◆
（Trench Experience）
第一次大戦の斬壕戦を、突然

されている。1階には映写室、書店、食堂、画廊、特殊展示室、二、三階のバルコニー部

分は第一次、二次大戦の戦争画その他の陳列場。

地階には第一次、二次大戦、戦後の紛争についての詳細な展示があり、特に「Belsen」1945年は、ナチスのユダヤ人強制収容所の恐るべき写真、

映画、絵、資料、そして四五〇〇人を救出したという英軍の作戦を示している。

◆
（Operation Jericho）
フランスのレジスタンスの闘士たちが捕えられ処刑されるというので、英軍の爆撃機が収容所の壁を爆破して闘士たちを逃がす特殊作戦。四畳半ほどの部屋に入ると、前面が大スクリーンで、離陸・偵察・爆撃・帰投着陸などのス

の爆発・銃砲の音・火薬の臭い・連絡用の電話のベル・命じて、実際の戦場にいるような緊迫した雰囲気のうちに感ずることができる。

◆ 大空襲体験

（Blitz Experience）

防空壕内に入ると、一九四〇年のロンドン電撃攻撃の状況を、爆発の光・音・臭い・

至近弾の震動・火災・破壊された建物・非常食などで体験することができる。

◆ ジエリコ救出作戦

（Operation Jericho）

フランスのレジスタンスの闘士たちが捕えられ処刑されるというので、英軍の爆撃機が収容所の壁を爆破して闘士たちを逃がす特殊作戦。四畳半ほどの部屋に入ると、前面が大スクリーンで、離陸・偵察・爆撃・帰投着陸などのス

リル満点の状況が映し出され部屋は飛行する爆撃機内で、上下左右に激しく震動、女性たちは悲鳴をあげて手に汗を握る体験をする。

（有料 421・115）

内閣用地下壕

（Cabinet War Rooms）

ロンドン大空襲下で、チャ

ーチル内閣はどうや国民を指導したか——ウエストミンスター寺院や英国議会に近い四階建ての政府用ビルの地下室がそれだ。もちろん空襲でねらわれる建物だが、堅固なつくりなので、たとえ一部破壊されても建物自体が防禦物となつて地下室を守ると考えられ、地下室を更に頑丈に補強、毒ガス攻撃にも火災にも耐えられるようにして、閣僚と軍の首脳は地下室で指揮した。

地下室にある一一室は幸い

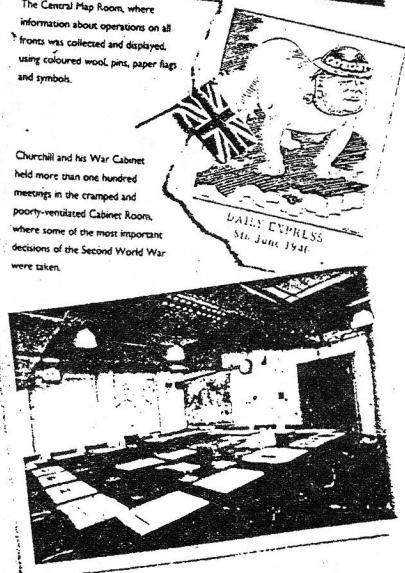


内閣用地下壕入口

にも破壊を免れ、日本軍の降服の日まで使われ、今は戦時中と同じように保存・公開されている。閣議室、チャーチルの寝室、地図室、ルーズベルト大統領と直通の電話室、タイプスト室、放送室、警備する実物大の兵士の人形、電話交換手室、休憩室などが、見るものを五〇年前に引き戻す。それぞれの室についてはヘッドフォーンから解説が流れ、実物の持つ迫力が見るものを見せる。



地下壕内の地図室。
戦場の主な情報は
ここにすべて集められ、
地図の上にはさまざまな標識が付けられた。



地下壕内の内閣室。
百回以上の閣議が
ここで行われ、重要な
決定がなされた。

ロンドンにはほかにも海軍博物館（帝国軍艦 Belfast）——一九六五年まで使われていた最後の重巡洋艦で、テムズ川ロンドン塔の前に浮ぶ）、ケンブリッジには航空博物館（Duxford）など沢山の戦争

博物館がある。英國では軍人の社会的地位が高く、戦史の研究が盛んで、第二次大戦は戦勝の歴史、しかもナチズムの脅威から祖国を救い他民族も解放した歴史なので、すべては誇らしげに展示され愛国

心をかきたてるようになっていて、これは問題だが、いつた博物館において大勢の男女高校生が教師と共に学習しているのを見ると、日本人は戦史に全く無知でよいのか、戦争放棄＝戦争研究放棄でよいのか、甚だ疑問に感じた。

広島の原爆ドームなどを除くと、日吉台の地下壕は大都會にあるほとんど唯一最大の（？）戦争の史跡であろう。小なりとはいえ今も残る寄宿舎の建物（連合艦隊司令部跡）を戦史博物館に活用し、そして地下壕を海軍使用時の状況に復元し、蠍人形やハイテク技術などを用いて当時の状況を直接目と耳で知りうるようすれば、高校生の歴史研究、大学生の戦史研究に最適の教材になるのではないか。

（慶大経済学部教授）

子供の頃

幹事 林 ちづ

今年は敗戦五〇年の年である。五〇年といえば、人の一生の大部分は終つたといわれた長い時間であった。しかし今では五〇年 + α が人間の一 生となりつつあり、 α の部分をいかに生きるかが課題となつた。

昭和世代である私も、物心ついたら戦争で集団学童疎開の子供であり、東京大空襲で家を失っている。幸い家族に犠牲は出ずに何とか今まで生き延びている。近頃、老境に入つた兄姉達が集まるときの思い出話になるが、いつも戦争前後の話に集中する。兄二人は軍隊、姉は勤労動員、私は学童疎開という戦時体験をもつてゐる。青春時代に戦争を経験した彼等と戦後教育を

受けた私とはかなり印象も異なるのだが、何とか話があつていくのである。我家は品川区の下町にあり、二〇年三月二〇日の空襲の時には辛うじて火災を消しとめたが、毎日防空壕との往復の生活で、五月の第二次大空襲には、ついに全焼してしまつたので、どこにいたものやら、手足まとひの私は疎開地へ行かされていたので、その頃の記憶はぬけおちている。昨年、東京、丸善で学童疎開の展示があつたが、絵日記などの記録がよく残されていたと感心した。

私は昭和二〇年のはじめに最後の学童疎開で東京近郊（日野市）へ行き、栄養失調症と八王子大空襲に会い、（何のために疎開したんだか）



多摩川を望む日野市
東京の遺跡散歩 東京都刊より

多摩川の橋を夜中に泣きながら皆でハグシで逃げたことしか覚えていない。夜空が夕焼けの様に赤く、山の影がくつきりと黒かつた。そして八月一五日に、戦争が終つたといわれ、少しづつ周囲から友達が消えていったが、私と一人位の子はなかなか迎えがこなかつた。親の生死が判らな

い子がいたのだろう。私の場合は戦後の生活がガタガタして私をつれ帰るどころではなくたつたらしいが、そんなことがえしていた。皆家を失つた我が家は家族と親類でごつたので家族が一緒にすめるのは運の良い方だった。

今、兄の一人は自分史を綴り始め、戦争中の所にさしかかつていて、入隊して広島市に配属されたが病弱のためすぐ病院に送り帰されてしまつたので原爆にあわずにすんだが、同期の人達はほとんど、南方戦線や広島で亡くなられたらしい。

五〇年というが、私達の五〇年は戦争の影響をたっぷり受けている。第二次大戦、日本戦争、太平洋戦争、他の国であるが朝鮮戦争、ベトナム

は子供にはわからないから、かなり傷ついた。みすてられたらと思つたらしい。

兄達も身体をこわしたり、父も生活を整えることにせいっぱいだつた。やつと帰つた我家は家族と親類でごつたがえしていた。皆家を失つたので家族が一緒にすめるのは運の良い方だった。

戦争、カンボジア内戦等。自分の国やアジアの国々でほとんど戦争から逃れられない日々だった。そして今まで毎日新たな戦争がどこかで起つてある。そう思うと「平和な日本」は全くもろい土壤の上に建つてゐるのではないか、辛うじて憲法第九条だけに支えられ、平和を願う人達の努力の上にあるのではないかと思つてしまふ。戦跡の傷あとはアジア、太平洋の島々に残り、日本の沖縄にもすさまじさをとどめている。忘れないが忘れられず、忘れてはならない歴史のあかしとして。戦争は弱者、老人や子供達にとってはむごいものだ。戦争の恐ろしさ、そして被害者と加害者の両面をもつ私達の戦争体験をアジアや、日本の若者達にどう伝えられるかが、私の課題だと思う。

された調査が完了し、報告書が刊行されました。朝日新聞(九四・一一・八)の記事をお届けします。

寺田事務局長が協力してこられた調査を報告書は、神奈川と朝鮮の関係史を調査した報告書「神奈川と朝鮮」を発行した。文化交流の歴史や朝鮮半島の民俗などを紹介しているが、全体の八割は強制連行された朝鮮人が県内の建設現場や工場などで働かされた実態など、戦時下の報告だ。

強制連行の実態を調査報告

県 朝鮮との関係史を発行

地域からの国際交流の一環として県は、神奈川と朝鮮の関係史を調査した報告書「神奈川と朝鮮」を発行した。文化交流の歴史や朝鮮半島の民俗などを紹介しているが、全体の八割は強制連行された朝鮮人が県内の建設現場や工場などで働かされた実態など、戦時下の報告だ。

2部構成文化交流史も

報告書は四百六十七頁で、第一部は「神奈川と朝鮮の文化交流史」、第二部は「戦時下の神奈川と朝鮮」となっている。

県は一九九〇年に韓国京畿道と友好提携した。これ

を機に地域で国際交流を進めようと翌年、調査を始めた。調査の執筆は、金原左門・中央大教授ら学識経験者の委員九人を中心

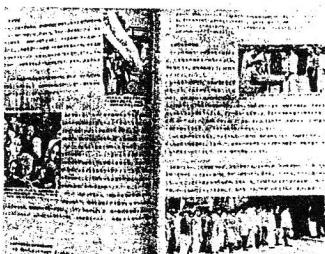
に、協力員など約五十人による「神奈川と朝鮮の関係史調査委員会」が行った。

報告書によると、一九四〇年に始まつた相模湖ダム建設では、四年六月まで

同委員会は、県内の市町村が保存していた朝鮮人寄留簿や、特別高等警察の内

に計四百人の朝鮮人が強制連行され、砂利採取やトロ

資料検証と200人聞き取り「過去の歴史とらえ直して」



報告書に掲載した内務省の記録によれば、四〇年から四三年までに約七千五百五十七人の朝鮮人が県内に強制連行されたとされる、といふ。報告書に掲載した内務省の記録によれば、四〇年から四三年までに約七千五百五十七人の朝鮮人が県内に強制連行されたとされる、といふ。

田昭次・立教大教授は「強制連行された本人だけでなく、家族らの苦痛も続いている。多くの県民に報告書を読んでもらい、過去の歴史をとらえ直してほしい」と話している。

された人は「一番危険な仕事をやらされた」と証言している。日本人作業員の妻は、宿舎から逃げ出した朝鮮人を捜し出しせつかんして殺した事件があった、と語っている。

五百部発行し、県立高校の図書室や公立図書館に配布した。問い合わせは県国

朝鮮での運行風景の写真も掲載した「神奈川と朝鮮」から

連載

日吉ロムロ地下壕
当時の関係者の
思い出話 9

らは地下壕⑦の作戦室で開いた。連合艦隊の重要な作戦は軍令部と相談して天皇の裁可を仰いで行なつた。

⑨には電信・暗号の各隊が

日吉での軍隊生活とはどんなものだったのでしょうか。

まず中島氏から伺います。

中島 親孝氏の話

(ききて・寺田貞治)

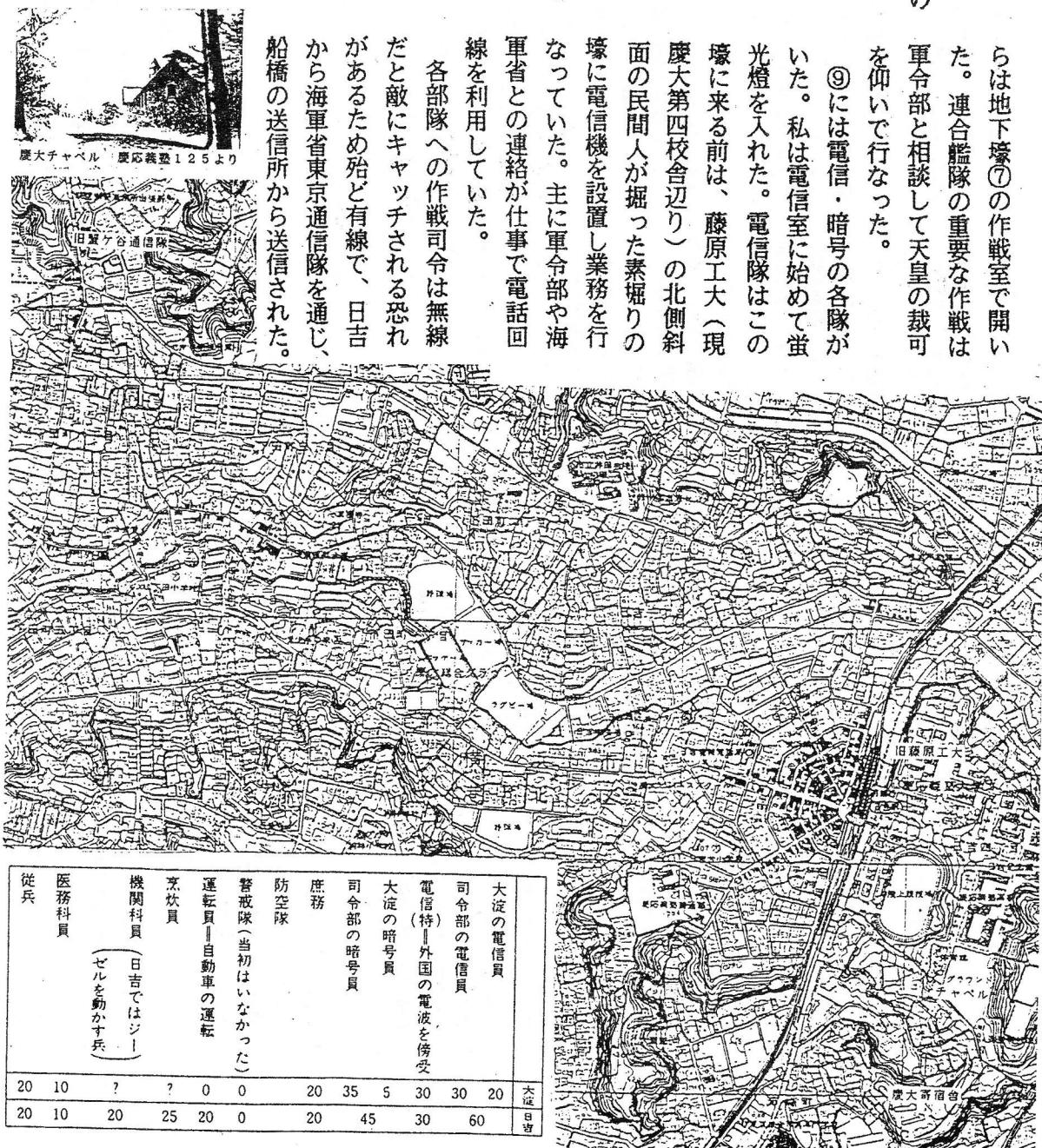
日吉に来た当初は、長官以下幕僚・士官・特準など約七〇名、下士官・兵など三五〇名の計四二〇名程度であった。

下士官・兵について大淀にいたときと比べると、表通りになる。終戦時には、司令部の人員は千名近くにふくれ上つていた。

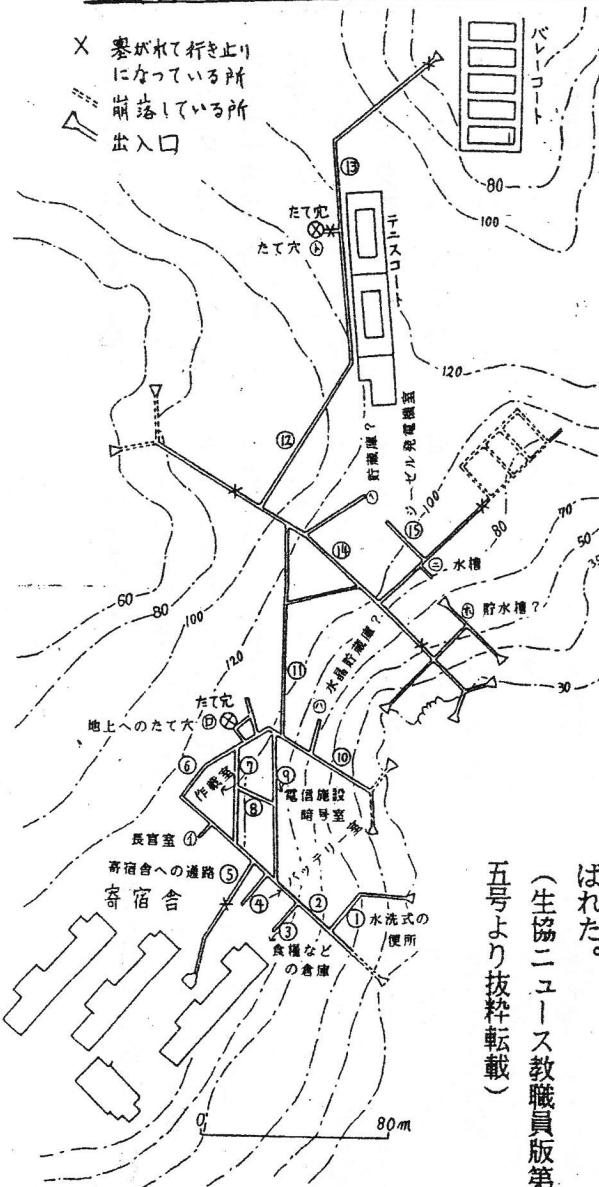
作戦会議は寄宿舎の中寮の食堂を改造した作戦室で開いたが、空襲が激しくなつてか

壕に電信機を設置し業務を行なつていた。主に軍令部や海軍省との連絡が仕事で電話回線を利用してた。

各部隊への作戦司令は無線だと敵にキャッチされる恐れがあるため殆ど有線で、日吉から海軍省東京通信隊を通じ、船橋の送信所から送信された。



(7)



電信機は外がアルミで中は銅でできているため、湿気の影響は余り受けなかった。
 ⑦の近くの縦穴からアンテナをだし、初期の頃、東京通信隊と交信したことがあった。蟹ヶ谷に海軍通信隊があつたが、軍令部が少し使つていなが、軍令部では殆ど使わなかつた。蟹ヶ谷は受信設備が大きかつたので弱い電波が受信できた。

田で受信し、東京通信隊を通して日吉の司令部に伝えられた。日吉でも慶大チャペルにラジオをおいて、英語のできる士官が海外放送を受信し、情報を得ていた。また日吉にきていた軍令部第三部（情報部）の実松氏の所に出入りし、情報を得ていた。

⑩の出入口附近に半地下式の兵舎を作り、兵士が寝泊り

司長官は⑤と⑥の間で、幕僚は⑦の作戦室附近で寝泊りした。壕の中の生活は湿気が多く快適ではなかつた。近くの小川で、沢ガニが多く見つかり、客が来るとテンプラにして出した。ご馳走だと喜ばれた。

（生協ニュース教職員版第四五号より抜粋転載）

- 一、一月三〇日矢上小学校PTAによる見学会一五名余参加
- 二、一二月五～六日「日吉台地下壕写真展」を横浜銀行日吉支店にて開催
- 三、同七日平和のための戦争展実行委員会開催
- 四、同八日戸塚・和泉・栄地区実行委員会による「戦争と平和を考える文化の夕べ」に写真パネルの貸出し、および寺田事務局長の講演。
- 五、同一〇日連続講演会
 - 「太平洋戦争と慶心義塾」第一回「真珠湾から日吉の丘へ」講師白井厚氏、四〇名余参加

